

# ゆび募金 だより



No.

6

会報 第6号

この潤いが  
小さな社会貢献へ



## より快適な情報化社会へ

株式会社テリロジーは、1989年（平成元年）の創業以来、「常にお客様のニーズに対応し、お客様の満足を実現する」という確固たる志を持ち、海外のネットワーク/セキュリティなどの最先端技術の製品ならびに関連ソリューションの販売、保守サービスを提供するネットワーク・インテグレータです。

当社のお客様は、大手製造業や通信事業者など、国内外で300社を超え、より良い情報ネットワークの環境づくりと、より快適な情報化社会の発展に貢献しています。

## 「ゆび募金」が社員の意識に変化を

当社では、社員一人ひとりが身近にできる社会貢献活動の一環として、購入者も間接的に募金活動に参加できる「ゆび募金」自販機を設置しました。

誰でも気軽に参加できる仕組みということで、社内では「自分にできる範囲のことで社会的貢献を果たす」という気運が高まって、近隣のコンビニ等より積極的に「ゆび募金」自販機で購入しています。JK協会のご担当者からは「従業員数の割に寄付金が多い」とご報告頂いています。

## 困難な立場の人々を支援したい

現在、国連UNHCR協会を寄付先として選定しています。紛争や迫害から逃れ厳しい避難生活を送る難民・避難民に対して援助活動を行うUNHCRに募金することで、微力でも困難な立場の人々や国際平和に貢献が出来れば、という観点から寄付をしております。

## 社会から愛され、期待される企業を目指して

企業は社会の一員です。企業が社会から愛され、存続を望まれるためには、社会の持続的な発展に貢献することが重要ではないかと考えます。

当社は、事業活動を通じて社会の発展と環境の保全に貢献し、社会から信頼され、期待される企業を目指しています。



株式会社テリロジー

代表取締役社長：津吹 憲男

本社所在地：東京都千代田区九段北1-13-5 ヒューリック九段ビル4F

従業員数：119名

事業内容：海外ハードウェア、ソフトウェア製品の輸入販売

ネットワーク関連製品の販売

エンドユーザへのシステムコンサルティングと構築・教育 ほか

# 企業の

# CSR活動



## 三機商工 株式会社

## 環境に優しく、安心・安全をモットーに

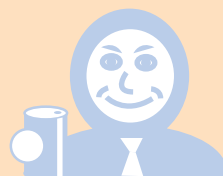
三機商工株式会社は、「環境に優しいリニューアル」をモットーに、経年劣化の進んだ建物の外壁補強・補修・美装工事、屋上防水改修工事及び耐震補強、再生可能エネルギー（太陽光パネル）設置工事等を行っています。建物の資産価値を高め、建物所有者様の管理者責任に対し、安全・安心が確保できる「建物再生・リフレッシュ工事」を行っています。

## 気軽な社会貢献「ゆび募金」を知って

日々事業に多忙な中、社会貢献やボランティアに関心はあるもなかなか取り組めずいたところ、「ゆび募金」のことを知りました。飲み物を買うという日常で行う行為が社会貢献につながるという手軽さが、社員にも負担にならず良いと考え、導入を決めました。

## これから関心を持っていきたい

寄付先には、たまたまチャリティイベントの案内を見て公益財団法人日本盲導犬協会の存在を知り、そちらを選びました。これをきっかけにどんな活動をしているのか、今後関心を持って見守りたいと思っています。



三機商工株式会社

代表取締役：村山 壽明

所在地：東京都八王子市石川町1808-1

事業内容：マンション大規模修繕工事・耐震補強工事・

太陽光パネル設置工事・リニューアル及び建築工事一式

# クオール 株式会社



## 医療の更なる発展に貢献

クオール株式会社は「わたしたちは、すべての人の、クオリティ オブ ライフに向きあいます。いつでも、どこでも、あなたに。」という企業理念のもと、クオールグループで、調剤事業・非調剤事業を展開する事業体です。各事業の相乗効果により、医療の更なる発展に貢献してまいります。医療連携を推進し、地域に密着した、質の高い医療サービスの更なる充実に努めてまいります。

## 常に企業としての社会的責任を考えながら

「ゆび募金」は、日本保険薬局協会からの紹介がきっかけで、全国の薬局、各事務所など、現在32カ所に設置の自販機に導入しています。医療に携わる企業として、また地域の一員として、当社は社会的な責任を常に考えながら継続的に取り組んでまいります。現在は他社への紹介も進み、社会貢献活動としての輪も広がっています。

できることから少しずつ。

クオール株式会社  
代表取締役社長：中村 勝  
本社所在地：東京都港区虎ノ門4-3-1城山トラストタワー37F  
従業員数：連結3,633名（2012年12月31日現在）  
事業内容：調剤事業、非調剤事業（CSO事業、治験事業など）



クオール薬局加西店

## 難病と闘う子どもたちの夢を応援したい

メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン（MAWJ）は、夢の実現から生きるエネルギーを持つ子どもたちのために活動されている一般団体です。

当社がこの団体の支援を開始して10年余り。全国の薬局窓口・各事務所に募金箱を設置し、子どもたちの夢が叶うように応援を続けています。チャリティーイベントでのボランティア活動や、社内行事での募金活動、バザー、X'masプレゼントの寄付なども毎年行っています。

# メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン



## 設立20年を迎えて

メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパンは、難病と闘う子ども一人ひとりの夢をかなえるために設立された世界的なボランティア団体です。本部はアメリカのアリゾナ州にあり、日本支部は昨年末設立20年を迎えました。20年という年月を思う時、支えて下さった方々の温かさへの感謝の気持ちと共に、重い病気と闘いながらも夢を育み続けた子どもたちの心の明るさ・強さに胸が熱くなります。

## 2千人の子どもたちの笑顔と夢

気がつけば2千人を超える子どもたちの笑顔に励まされ、後押しをされながらの歩みでした。ひとりの子どもの笑顔が、ご家族に、そのお手伝いをしたボランティアさんに、その話を聞いた多くの人たちの心に届き、喜びがさざ波のように広がってきたのです。夢・笑顔・喜びというキーワードが、この活動の原動力となりました。

「江ノ電の運転手になりたい」 朋宏くん



## ひとりでは叶えられない夢を応援

例えば10万人にひとりという難病にかかる子どもがいます。たまたまその子は病気になり、そのお蔭で、残りの99,999人は元気でした。元気な99,999人は自分で夢をかなえることができるかもしれない。でもそのひとは自分の力だけではできないとしたら、99,999人はその子の夢を応援してほしいと思います。

「ゆび募金」による、子どもたちへの力強いエールに感謝します。

「野生のイルカと泳ぎたい」 俊輔くん



「フロリダのディズニーワールドに行きたい」 亜美さん

# 東日本大震災 「広域避難者支援基金」を立ち上げました！

現在、震災や原発事故の影響により、避難生活を送っている被災者の方々は、30万人を超えています。宮城、福島、岩手の被災3県以外では、山形県への避難者が最も多く、次いで東京都、新潟県となっています。不自由な避難生活の中で不安や孤独を感じたり、就労や経済的な面で困難を抱える被災者を支援するため、全国各地でNPOやボランティア団体が様々な取り組みを行っています。

そこでJK協会は、公益財団法人パブリックリソース財団とともに「東日本大震災 広域避難者支援基金」を立ち上げました。この基金をゆび募金の寄付先のひとつとし、避難者支援に取り組むボランティア団体に寄付を行っていきます。いまなお避難生活を送られる方々が、1日も早く安定した生活を取り戻し、未来に向かって歩いていけるようになることを願い、支援に取り組んでまいります。

この基金については、今後も経過をご報告してまいります。基金の立ち上げは、JK協会にとって初めての試みです。会員ならびに関係各位の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 【今後寄付を行う予定の団体】

### NPO法人IVY（アイビー） （山形県山形市）

福島から山形市内に避難している家族の生活を応援するため「あいびい保育園」を開設。就労と生活の安定化を支援しています。保育士も福島からの避難者です。



### NPO法人こどもプロジェクト （東京都新宿区）

福島などから東京に避難している子どもとその家族が、一日も早く笑顔と安心した生活を取り戻せるように、大学生と共に学習支援やレクリエーション、情報交換会等を開催しています。



### 東日本大震災 ボランティアバックアップセンター （新潟県長岡市）

福島からの避難者は長岡市内に390名。週1回の集まりや借り上げ宅の見守り、避難者主体のサークル活動の支援等、日常生活を取り戻し、再び自立するための支援を実施しています。



## 平成24年度（平成24年9月～平成25年8月）寄付実績

期 間	寄付金額	寄付月
第1回（H24.9月～12月）	3,296,419円	平成25年2月
第2回（H25.1月～4月）	3,294,448円	平成25年6月
年計	6,590,867円	

累計 98,230,840円（平成25年4月末現在）

## 編集後記

「広域避難者支援基金」の立ち上げにあたり、いまだ30万人以上の方々が避難生活を送っているという事実、改めて愕然としました。避難者支援を行っている市民団体の多くは、手弁当で厳しい資金繰りの中で活動しています。その一方で、国の復興支援予算が、全く関係のない事業に使用されているというニュースを見ると、とても歯がゆい思いがします。NPOやボランティア団体にもっと資金が回れば、被災者が必要とする支援ができるのでは…。この基金により少しでもそのお手伝いができれば、と願っています。

最後に、今回の会報作成にあたり、ご多忙の中ご協力を賜りましたロケオーナー様、寄付先団体様に心より御礼申し上げます。

（青木）

## ゆび募金だより 会報第6号

発行日： 2013年 6月 1日

発行：  特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会

〒186-0004

東京都国立市中1-18-41 栄ビル301

TEL：042-571-2233

FAX：042-571-2263

Eメール：info@jkkyoukai.com

URL：http://jkkyoukai.com/